

篠栗町下水道事業経営戦略見直し【概要版】

(平成 29 年度～令和 8 年度)

第 1 章 経営戦略策定・見直しの趣旨

- 篠栗町の下水道事業は、令和 3 年度には 536.6ha のうち、536.1ha を整備し終わり、維持管理や長寿命化に重点を置いた施設運用をしています。また、会計・経理の面では、平成 26 年度に、地方公営企業法を適用した公営企業会計に移行しており、概ね順調に事業運営されてきました。
- 少子高齢化や人口減少時代の到来、節水型社会への変化など社会の潮流は転換期を迎えており、下水道事業の今後の事業運営に大きな影響を及ぼすことが予想されています。
- 平成 26 年 8 月には公営企業の経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むため経営戦略を策定するよう、令和 4 年 1 月には策定した経営戦略に沿った取組等の状況を踏まえつつ、PDCA サイクルを通じて質を高めていくため経営戦略を見直すよう、総務省から通知がありました。



篠栗町においても、限られた財源の中で、経営環境の変化に適切に対応し、一層の経営基盤の強化を図ることにより、今後も住民に下水道サービスを持続的・安定的に提供していくための指針として、経営戦略を策定・見直しするものです。(計画期間：平成 29 年度～令和 8 年度)

第 2 章 下水道事業の現状と課題

- 篠栗町の下水道は、平成 8 年度に供用を開始し、平成 20 年度には、全体計画における整備区域を概成しています。
- 平成 29 年 4 月 1 日には、下水道事業の厳しい財政状況を踏まえ下水道使用料の改定を行いました。
- 財政状況は概ね健全と言えますが、企業債償還額は令和 7 年度までは増加することが見込まれており、中長期を視野に入れた経営を行う必要があります。
- 管渠の老朽化はしばらく発生しませんが、適切な維持管理を行うことで長寿命化を図るとともに、短期間に更新費用が過大にならないようアセットマネジメントを行う必要があります。

[令和 3 年度末の現状]

水洗便所設置済人口：29,158 人（水洗化率：97.0%）→高い水準にあり水洗化が進んでいる

経常収支比率：101.2% 累積欠損金比率：0% →経常収支は黒字を確保しており累積の赤字もなく健全

管渠老朽化率：0%→老朽化した管渠はない

将来の予測と課題

○人口減少社会の進展：下水道使用料の減少につながる

○新たな変化要因

①篠栗北地区産業団地の稼働：収益増大の見込み

②浸水（内水）被害対策の実施：総合的な浸水（内水）被害対策の実施

第3章 経営の基本方針

【経営理念】

篠栗町の下水道事業は、町の健全な発達と公衆衛生の向上に貢献し、公共用水域の水質の保全に尽力します。

【基本方針と将来目標】

(1) 常に経済性を発揮し、公共の福祉を増進します。

①水環境の保全：(平成27年度)水洗化率96.1%→(令和8年度)水洗化率97.0%

(2) 住民が安心して快適に暮らせるまちを実現するため生活基盤の推進に寄与します。

①浸水に強い下水道：(令和8年度)内水ハザードマップの策定

②下水道資産の適正管理：(平成29年度～令和8年度)管渠清掃 累計100km

第4章 投資・財政計画（収支計画）

- 投資としては、平成29年度から令和元年度にかけて、篠栗北地区産業団地関連の工事として汚水本管の敷設と雨水管の改修を行いました。その他で、大きな投資計画については、計画期間内にありません。
- 使用料収入は、平成29年度の使用料改定により増加しました。令和5年度以降は篠栗北地区産業団地稼働による収入増加を見込んでいます。
- 一般会計繰出金については、総務省が定める基準内で、一般会計の財政状況等も勘案しながら、公平かつ適正な金額で負担金の繰り出しを受ける予定です。
- 企業債については、世代間で適切な費用負担となるよう今後も適切な範囲内で借入は行っていきます。

第5章 経営戦略の進捗管理

- 戦略の進捗管理は、各年度末に行い、令和8年度末までに見直し（改訂）を行います。
- 見直しの際は、計画と実績との乖離及びその原因を分析し、「計画策定（Plan）—実施（Do）—検証（Check）—見直し（Action）」のサイクルを活用します。
- 使用料の算定根拠や事業の経営状況、経費削減等の経営努力等についての情報を公開して、事業の透明性を確保していきます。